

第1章 取り組みを徹底検証

市民の声をまちづくりに

「地域審議会」を設置し、
地域づくりなどについて審議

取り組みの内容

合併により、周辺地域の声が届きにくくなるのではないかと
いった懸念に対応し、地域の住
民の意見を新市のまちづくりに
反映させるため、各地域の各界
各層から選出された委員で構成
する「地域審議会」を旧8町村
に設置しました。

評価

設置当初は、地域審議会の運
営などについて試行錯誤するこ
ともありましたが、「会長会」
を開催するなど、現在は、各審
議会が共通認識をもち、円滑に
運営されています。

この審議会では、地域のさま
ざまな課題や地域づくりについ
て審議され、市長への意見書も
鹿野・青谷の両審議会から提出

されるなど、活発な運営が行わ
れています。

今後の課題・取り組み

今後も、各地域の意見を、本
市のまちづくりに反映させてい
きます。

審議会委員については、任期
は2年と定められているもの
の、自治組織役員などの場合、
単年度で改選となるため、委員
の短期間での交代が発生してい
ること、また、女性委員が20
%、20、30歳代の若年層の委員
が4・4%と、委員全体に占め
る割合が少ないというような課
題も抱えており、今後の委員構
成のあり方について、各審議会
の意見を踏まえながら、検討を
進めたいと考えています。

市民と市役所の距離を
縮めるための広聴活動を重視

取り組みの内容

役場が遠くなり住民の声が届
かなくなるのではといった不安
に対応するため、市長をはじめ
とする市幹部職員が出席し意見
交換する「地域づくり懇談会」、
市長へ直接意見を伝えることが
できる「市長アワー」、「市長へ
の手紙」など、いろいろなチャ
ンネルを設けて、市民のみなさ
んの声を地域づくりに反映する
よう努めてきました。

評価

新市の行政サービスが各地域
にくまなく行き届くように、市
民のみなさんとの対話行政に積
極的に取り組み、住民のみなさ

んに、市役所
を身近に感
じていただ
いていると
思います。

今後の課題・ 取り組み

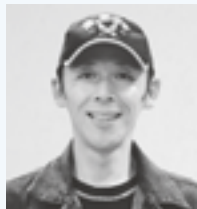
今後も市
長が地域に
出向き、各種団体の活動やイベ
ントなどにも積極的に参加する
など、住民のみなさんと市長が
接する機会を増やしていきま
す。また、総合支所の責任者で
ある支所長と各課長が、住民と
意見交換をする「集落座談会」



行動範囲が広くなり 視野が広がった

橋本 保 さん

はしもと・たもつ 46歳
福部町湯山



観光梨園を経営していますが梨狩りのお客様
は県外の方がほとんどで、今年8月下旬から約1
カ月間の二十世紀梨のシーズンには、6万人以上
の観光客がいらっしゃいました。観光面では、合
併して特に変わったという感じはしません。

私は、地元の和太鼓グループ「ふくべ砂神太
鼓実行委員会」の会長をしています。素人ばか
りの集団で結成してから6年目になりました。
メンバーは中学生から55歳までの15人。太
鼓は、エネルギーを発散できるし、打ってい
るときは無心になれるので、楽しくてたまりませ
ん。合併してからは、佐治町や河原町まで演奏
に出かけるようになりましたし、合併1周年
記念の「とっとりきらめき祭」にも出演します。
現在、メンバーを募集中。元気な人、大歓迎で
す。自分自身、行動する範囲が広がり、知人や
友だちが増え、いろいろな意味で視野が広がり
ました。これが、合併効果ですかね。